

ママたま通信

第2号

不育症のプレママ・ママ達の会ができました。

流産や死産を経験されたママ
今、治療を受けているプレママ
これから治療をはじめるプレママが
気楽に話をできる場としてご利用ください。



ママたま会員からのお便り

「気持ちの持ち方、気持ちのコントロールの仕方はどうしたらよいのですか？」

結婚してすぐに妊娠しましたが、妊娠6週で流産。1年たって再び妊娠、2度目は赤ちゃんの心拍も見えましたが、やはり流産となりました。流産した1週間前には、赤ちゃんの心臓は確かに動いていて、かわいかった事を覚えています。流産になったことも悲しかったのですが、もう自分は子どもを産めないのではないかと悩みました。親にも初孫をなかなか見せてあげられないし.....

流産した病院では、あまり詳しい検査はありませんでした。でも、気持ちを落ち着けて自分でいろいろ調べてみました。そして、「自分は不育症ではないか」と疑い、原因を調べようと思って自宅の近くの産婦人科病院を受診しました。2ヶ所の病院を受診して検査を受けましたが、「異常なし」との結果でした。このまま、もう一度妊娠をともしましたが、やはり不安が強く迷っていた頃、インターネットで岡山大学病院の不育症外来を知り、思い切って受診しました。

岡山大学病院の不育症外来では、多くの方が治療されていて出産もされていることを知った時、自分の前にも道が開けたような気持ちになりました。検査で流産の原因と考えられるものも見つかって現在治療中です。私の住んでいる県では、不育症外来のある病院はなく岡山大学までの通院は大変です。1つ



岡山県不妊専門相談センター 第3回講演会 迫る!!

第3回 不妊・不育とこころの講演会

テーマ「はじめての受診、治療のステップアップ：
自分の知りたいことをきちんと聞ける？」

診療場を疑似体験しよう

模擬患者と医療スタッフによる再現

日時：2007年7月22日(日)13時～

場所：岡山国際交流センター国際会議場

参加費：無料

参加申込：県のホームページから。

<http://www.pref.okayama.jp/hoken/kentai/boshi.htm>

当日参加も可能。

の県に1つでも専門外来ができれば、もっと多くの方が治療できるのと思います。もっと世間でも認知度が高まって、自費でしかできない検査も保険適応になればいいのにも思っています。それに何よりも、流産を繰り返して悩んでいる方にも、不育症という名前を知ってもらって、検査に踏み切って原因を見つけて、そして赤ちゃんを抱けるように頑張りたいと思います。

まだ、私は治療の途中ですし、時には不安になることもあります。すでに不育症の治療で赤ちゃんを授かった方々にお聞きしたいのは、「自分の気持ちの持ち方、気持ちのコントロールの仕方はどのようにされていたのか？」ということです。



ママたま通信ではあなたのお便り、お便りへのご助言をお待ちしています。

ママたま通信 第2号

Q. 抗リン脂質抗体は、なぜ、不育症の原因になるのですか？

A. リン脂質にはいろいろな種類があります。妊娠が成立すると、胎盤の絨毛は母体の子宮内膜の中へ広がっていき胎児へ酸素や栄養を供給します。この絨毛の表面には、各種のリン脂質が存在します。また、血管の内側の壁の表面にもリン脂質が存在しています。

これらのリン脂質を攻撃する抗体（抗リン脂質抗体）を持っていると、着床自体が起こらず不妊症の原因になったり、着床後に絨毛が広がって行かず流産になったりします。また、妊娠初期に流産は起こらなくても、胎盤内の細い血管の内側が攻撃され傷ついて血液が固まり詰まってしまうこともあります。そうすると胎児への酸素や栄養の供給が不足し、胎児の発育が遅くなったり、胎児死亡を起こしたりします。

胎盤の血管が詰まり血管が破れて出血することを繰り返した場合、超音波検査で見ると、胎盤は分厚くなり、内部に血液貯留像などが見えてくる場合があります。胎盤の血流は低下し、胎児から胎盤に向かって流れる臍帯動脈（へその緒の中を走っている動脈）の血管抵抗（PI値）を測定すると高くなっています。こうして胎盤の機能が徐々に落ちていくと、胎児にストレスがかかり胎児がする尿の量が減り、胎児が浮かんでいる羊水量も減ってきます（羊水過少症と呼ばれ、やはり、超音波検査で見つかります）。さらに、この状態が持続すると、胎児の成長は発育曲線からそれて大きくならなくなっていきます。もし、よく知りたい方は、妊娠されたら成長曲線のグラフをもらって胎児の大きさをプロットしてみましょう。

抗リン脂質抗体には次のようなものがあります。

抗カルジオリピン抗体（抗CL抗体）

ループス抗凝固因子（LAC）

抗 2-GP I抗体

抗フォスファチジルエタノールアミン抗体（抗PE抗体）

抗フォスファチジルセリン抗体（抗PS抗体）

抗プロトロンビン抗体（抗PT抗体） など

どの種類の抗体を持っているか、どのくらい高い値かによって、重症度は違うと考えられますが、その詳細は、まだ、研究されているところです。



岡山大学医学部保健学科
岡山大学医学部・歯学部附属病院
岡山県不妊専門相談センター
の共同研究として、
ヘパリン注射に関するアンケート調査
を施行中です。
ぜひ、ご協力をお願いします。

ママたま通信 第2号

会員登録(無料)はインターネットでも可能です。
会員には、ママたま通信をお届けします。
不育症外来の卒業生も、ぜひ、会員となって
後輩に話をしておいてください。
お問合せは右記まで。

2007年7月号第2号 **ママたま通信**

編集/印刷/発行 岡山県不妊専門相談センター

「不妊・不育とこころの相談室」

〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1

Phone&Fax 086-235-6542

E-Mail funin@cc.okayama-u.ac.jp

URL [http://www.okayama-u.ac.jp/
user/hos/funin/index1.html](http://www.okayama-u.ac.jp/user/hos/funin/index1.html)